

東海大学 前田 利明 監督

社会性・思考力を身につける
「考える」空手部

今回は、東海大学です。まもなく創部 70 年を迎える伝統校で、約 600 名もの卒業生を輩出しています。今回部を説明していただく、同校の OB で監督の前田利明先生は、現役時代に全日本選手権優勝、世界選手権 3 度出場で金メダルも獲得している世界王者。現在も、全空連常任理事、和道会副理事長と要職を務めています。

東海大学空手部は、そんな前田先生による本格指導を受けられることでも有名です。それでは、部を紹介していただきます。

■湘南キャンパスで活動

東海大学体育会空手部は、創部 69 年目の伝統ある部です。神奈川県平塚市にある湘南キャンパスで活動をしています。創部以来、東海大学建学の精神のもと、「空手を通しての人間形成」を目的に「明るく楽しく」をモットーに活動をしています。



男女ともに部員がおり、形、組手いずれの選手も所属している。



部員の皆さんの集合写真。

現在部員は 20 名、男女ともに部員がおり、形、組手いずれの選手も所属しています。部は和道会に属していますが、他の流派出身の部員もおります。スポーツ A O 入試を経て入部する部員、また大学から空手を始める部員もいます。

■考える空手道を

練習は 1 日 2～3 時間で、集中して行ないます。通常は月曜から土曜まで、月・火・木は朝 7 時からの早朝の稽古、水・金は 18 時からの稽古で、土曜は午後に練習をしています。

練習内容はその場基本（突き、蹴り）、移動基本を全体で行ない、その後、形と組手のパートに分かれての個別練習。組手はミット、打ち込み、カウンターとやってから、試合形式に入ります。また、筋力トレーニングも行ないます。

部のテーマに「考える空手道」というものを掲げて、選手個々の考える力を養っています。毎日の稽古も学生と監督が話し合い、自主的でとても前向きな雰囲気の中でプログラムを作っています。

もちろん空手道の技術にはベースがありますが、組手も形も「守・破・離」の言葉のもと、原理を身



練習内容は、基本を全体で行ない、その後、形と組手のパートに分かれての個別練習を行なう。

につけた後は、それぞれ個人の体格やスタイルに合わせて技の出し方などの意識をすることを心がけています。

練習メニューには私は細かい口出しはせず、「何のために今の練習をやっているか」、「どういう意図の練習なのか」を学生に問いかけ、その返事をもとにアドバイスを与えています。

■部員の生活

部員の生活ですが、自宅通学かアパートでの一人暮らしになります。文系学部（文学部、政治経済学部、法学部、教養学部）が多数を占めますが、体育学部や工学部に所属している部員もいます。

進路は多くの学生が一般企業に就職し、各分野、多岐にわたって活躍しています。伝統校ゆえの強みで、全国各地にいる O B との連携を図り、情報共有が可能です。やはり空手部で活動してきたことが評価されて、就職率はとても良いですね。



「考える空手道」を部のテーマに掲げ、学生と監督が話し合い、自主的で前向きな雰囲気。



納会の様子。合宿や遠征など、部の行事の運営について、学生が積極的に前面に出る。学生が卒業後、社会で活躍するための取り組みにも力を注ぐ。

東海大学 空手部 (1947 年創部)

部長 / 大山龍一郎 (工学部長)
監督 / 前田 利明



東海大学 空手部 監督

前田 利明

まえだ としあき



まもなく創部 70 年を迎える伝統校。前田利明、鈴木雄一と言った世界チャンピオンをはじめ、約 600 名もの卒業生を輩出している。部の所属は和道会。現在部員は 20 名。男女ともに部員がおり、形、組手いずれの選手も所属している。文系学部所属する学生が多数を占め、加えて体育学部や工学部の学生もいる。

1953 年 8 月 19 日生まれ。熊本県出身。16 才から空手を始める。東海大学附属第二高校（現 東海大学附属熊本翔高校）空手部、東海大学湘南校舎工学部金属材料工学科卒。大学卒業後、(株)東京フィジカルセンターに入社し、空手道の研鑽と指導に励む。選手として全日本選手権優勝、世界選手権優勝など、国内外で長年にわたり上位に君臨。1976 年東海大学空手部コーチに、1985 年に同監督に就任する。現在、全空連常任理事、和道会副理事長など要職を務める。